

北区民まちづくり会議 第2回地域コミュニティ賑わい部会 摘録

日 時： 平成29年11月27日（月）午後6時30分から午後8時20分

場 所： 北区役所大会議室

【開会】

○事務局

開会宣言

【区長挨拶】

○松本区長

皆さんこんばんは。公私共々お忙しい中お集まりいただき感謝している。

この地域コミュニティ賑わい部会については、町内会への加入率向上ということで昨年からは議論を続けている。

北区では、平成32年度までに町内会の加入率を80%に高めようということで、大変高い目標を掲げている。この目標が高すぎて、現実的に追いついていない状況である。

この自治会加入率の向上については、住民の皆さんにこの住み慣れた地域で、安心して幸福に暮らしていただくため、人と人が繋がることが大変重要であるという認識のもとに、取り組んでいるものである。

そのために、行政として何ができるか、地域として何ができるかを共に考え、実践していきたいと考えている。

今日はどんなことができるのかについて、様々なアイデアを出していただきたい。限られた時間ではあるが、よろしくお願いします。

【議事】

○事務局

続いて、初対面の方々もおられるため、各テーブル内で自己紹介をお願いします。

<自己紹介>

それでは本日の会議を始めて参る。会議の進行については、本部会の部会長である関谷先生にお願いしたいと思う。関谷先生、よろしくお願いします。

○関谷部会長

それでは、お手元の次第に従い、議事を進行させていただく。「議題 自治会・町内会加入に係るワークショップについて」、まず、パワーポイントに沿って、今年度の流れ、本日の流れ、第1回目の部会の振り返りを事務局から説明していただく。

○事務局

<（パワーポイント）に基づき説明>

このパワーポイントでは、今日のワークショップの流れや前回のワークショップでの議論をご説明したい。

まず、今年は、町内会の加入促進ということで、既に町内会に入っているが、負担を感じ

ている人、高齢になって体力面や金銭面でしんどさを感じている人、また、未加入者については、マンション住民と大学生というようにテーマを絞って議論をしている。

第1回目のワークショップでは、各対象者の思いを想像しながら意見を出し合い、それに対して、地域ではどういった活動をしているのかということも議論した。

本日は、他学区の取組紹介と、各テーブルでアイデアの検討を行っていきたいと考えている。

議論に入る前に、各テーブルで、出た共通意見を振り返っていきたい。「町内会に入るメリットがない、町内会が何をしているか知らない、役が負担だ、町内に知り合いがおらず、内輪感がある、所帯を持っている、特に子どもがいる世帯が入る印象がある、金銭的に負担、ほかの事への優先順位が高い、知らない人とコミュニケーションを取りたくない」というようなことが、どこのテーブルでも出ていた。

一方、それに対して各地域でどういった取組をしているのかについて。町内会に入っていない人も含めて行事にお誘いしている、町内会長の負担軽減に向けて助っ人を派遣している、イベントの企画など楽しい役を設ける、また、何も行っていないという学区もあった。

アイデアとしては、町内会を抜きたいと言われたときに、しっかりと原因を追究すること、挨拶を始めとした声掛け運動をしよう、マンション住民が個別に町内会に入ることを認めよう、趣味サークルを作ればどうかというようなものがあつた。

この後、紫竹学区から取組を紹介していただこうと思う。その後、テーブルごとに前回の議論の振り返り、新しいアイデア出しをしていただきたいと思います。

その後、地域代表者と進行役以外の人は、ほかのテーブルに動いていただき、情報収集をしていただきたいと思います。情報収集後に元いたテーブルに戻っていただき、議論を膨らませていただきたいと思います。

○関谷部会長

ありがとうございました。

それでは、続いて、様々な取組を進めておられる紫竹学区から学区内での取組をご紹介いただきたいと思います。高奥会長、よろしく願います。

○高奥会長

紫竹学区でやっている取組をご紹介したいと思います。

まず、「1 自治会を行う上で大事にしていること」について。一番大事にしているのは、町内会長の会議。昔は年に3度ほどの会議であったが、それでは顔も覚えられないということで、月1回ほどの開催に変更した。これをする、顔の見える関係ができるだけでなく、いろんな話ができるようになった。

また、何か一つ仕事を担当してもらうことにしている。例えば、防犯、体振、社協の会議に町内会長として参加してもらうというような役を持ってもらうようにしている。

町内会の役員になるのが嫌だという話が先ほども出ていたが、誰もがができるような簡単な役にすれば、負担が減る。役への負担感を減らすように、進めていきたいと考えている。

「2 イベント等における工夫」であるが、紫竹学区で行うイベントについては、紫竹学区の住民でなくても参加可能ということにしている。また、企画を30～40代の若手に任せている。開催の時間帯にも幅を設け、多世代が来やすい環境づくりをしている。

「3 役員に対するモットー」であるが、人数が集まれば様々な意見が出てくるが、基本的に全て前向きに捕らえて実行している。一見できないことでも、みんなでアイデアを出し

合って、考えている。

お金や物で人を動かすのではなく、企画と楽しさで動かそうと考えている。自分の学区をよくするために、それぞれが動くことが基本だと考えているため、飲食について負担はせずに自腹で賄っている。

長期計画として「日本一住みたいまち紫竹」を5年ほど前から掲げているが、中期目標として、昨年、紫竹まちづくりビジョンを策定した。

今年度部会で、四つのテーマについて議論しているが、紫竹学区では、今町内会に入っている人をどれだけ楽しませるかということしか考えていない。あえて、大学生やマンションに意識的にアクションはしていない。なぜ入らないかという調査は行っている。

高齢者については、防災訓練の機会を通じて、町内会の必要性をアピールしており、町内会に入っていることによる配慮をお伝えしている。

今後の目標としては、家に引きこもりがちな人に対して、どのようなアプローチができるのか、文化系の人が出て発表できる展覧会のようなイベント等の企画などを行っている。

今、町内会に1万円の補助を学区で用意している。地蔵盆の後に大人の会を開催するというようなことを行っている。

また、学区では、紫竹カップとあって、地域活動への参加率を町内会で競ってもらい表彰するような取組をしている。

参考にならないかもしれないが、楽しんで参加できるような機会を作るような努力をしているところだ。

○関谷部会長

ありがとうございました。

紫竹学区から取組紹介をしてもらったが、テーブルごとに前回の振り返りと取組の検討を行っていただきたいと思う。それでは各テーブルの進行役さん、よろしく願います。

~~~~~

## 【①自テーブルでの情報共有】

### <Aテーブル>西原まちづくりアドバイザー

#### ○西原まちづくりアドバイザー

先日、紫野学区でハロウィン祭を初めてされたと思うが、120組くらいの親子が参加された。楽しいイベントを通じて、参加する側と受け入れる側のパワーを感じた。

#### ○A氏（紫野学区）

当日は、台風で雨だったが200人を超える人が来てくれた。

#### ○B氏（紫野学区）

紫野小学校250人中130人の子どもが出てきてくれた。小学校を通じて案内してもらった。その後の繋がりが未だできていない。

#### ○西原まちづくりアドバイザー

その他、新しい取組として、月に1回、学区民全員で門掃きをしようということも考えている。まず、家の前を出て、近所の人と顔を合わせることから始めようということ。コミュニケーションとなるとハードルが高いが、自分の家の前をきれいにしようというのをきっかけにしている。

### ○B氏（紫野学区）

門掃きも続けていけば、人数も増えてくると思っている。家族で参加してくれるところが出てきた。それが広がっていけばいいと思う。

### ○A氏（紫野学区）

家から出て来ない人にどうやって外に出てきてもらうかが重要。町内で何かをすることも、手伝ってくれる人が減ってきている。子供がいない人は特に、参加されない。

### ○A委員

イベントを行うにも、負担感を感じずにやってくれる人が中心にいないと続かない。

### ○西原まちづくりアドバイザー

確かに。ハロウィンもPTAの方々が、子どものためにということで楽しんでやってくれていた。

### <Bテーブル>山本まちづくりアドバイザー

### ○C氏（紫竹学区町内会）

先日、町内会が起案したお月見会を開催したが、大成功だった。企画をしっかりしていかなければお金がもらえないので、みんなで必死に企画した。その甲斐もあって、地蔵盆より良かったと、大変好評だった。皆さんに楽しんでいただいた。手作りでいろんなものを考えた。来年もしてくれとの声もあった。1万円の補助であったが、大変充実したものになった。

みんなでやっていたら、ボランティアでお花を持ってきてくれる人などもいた。

### ○B委員

地蔵盆の後に、その場所で大人たちがワイワイ飲み会をするような取組をした町内会もある。

### ○鈴木係長

誰かが中心になって始めてしまえば、手伝ってくる人は出てくる。

### ○B委員

学区ビジョンの策定をきっかけに、町内の元気応援プロジェクトというものを立ち上げ、学区として補助金を用意した。

### ○鈴木係長

中心で動いている人が楽しんでいると、手伝うというより、参加したいという気持ちになるのだと思う。

### ○B委員

主催者が楽しまないといけないと思っている。

### ○C氏（紫竹学区町内会）

先ほど紫竹カップの話が出たが、参加人数を増やすために町内で頑張っている。競争がいい効果をもたらしていると思う。運動会の行進には何人必要だから！というように頑張っている。

### ○D氏（大谷大学生）

1位になったら何かもらえるのか。

### ○B委員

優勝カップと野菜など、たくさん景品がある。楽しんでやっている。

### ○C氏（紫竹学区町内会）

町内会に入っていない人が参加してくれた時は、疎外感を感じないように、とりあえず、声掛けに取り組んでいる。

### ○B委員

負担感を感じるのはやはり役だと思うが、サポートの仕組みを考えている。

### ○C氏（紫竹学区町内会）

できないと言われたときに、あまり押し付けると逆効果になる。それよりは、役は免除してもイベントには是非参加してもらおうという方がいい。

## <Cテーブル>松井係長

### ○松井係長

まず、前回の振り返りだが、このテーブルは、町内会に入っている高齢者が辞めないことを考えるテーブル。

年金生活で町内会費を払えない、体力的に役が受けられない、近所の助けはいらぬというような意見が出ていた。これに対して、どんなことに取り組んでいくかということについては、学区全体で高齢者の役の免除を、考えていかないといけないという意見が出ていた。また、新規の方が来られた時には、声掛けをしっかりと疎外感を感じられないような工夫をしているという話もあった。

### ○C委員

年金生活で町内会費が大変ということについて。町内会に入ると町内会費だけでない寄付などもたくさん徴収される。

### ○松井係長

減免というようなことは考えにくい。紫竹学区では楽しんでということ念頭にされていたが、ルールを作って、減免するという考え方もあると思う。

### ○E氏（産業大学生）

減免ということを考えるのであれば、高齢者以外の方がその分を負担するというようなことを考えなければいけないのではないかと。

しかしながら、働く世代の方が、それを納得するかどうかは疑問。

### ○F氏（産業大学生）

昨日学区で、高齢者を対象にした歩こう会を開催したが、このように楽しめるようなイベントを行うと、皆さん喜んで参加された。

単に歩くのではなく、ショッピングの時間を設けるなど、楽しむ時間を設ければ喜ばれる。

### ○D委員

うちの町内は、廃品回収で年間お金を稼いでいる。イベントについては、ある程度自己負担、参加する人がお金を払う仕組みを取り入れている。それによって、町内会費を減らすようにしている。

寄付などについて、年に何度も集金をしないといけない。特にお年寄りについては、町内会費は払うけれど、日赤、共募などは払わないという人もいる。町内会費だけだと安価になる。そういう方法もいいのではないかと。

## <Dテーブル>朝倉まちづくりアドバイザー

### ○朝倉まちづくりアドバイザー

このテーブルではマンション住民をテーマに議論を行った。マンション住民の意見として前回出ていたものは、町内会は面倒臭い、魅力的な活動がない、子どもができれば入るかな、運動会に参加したいので入りたい、というような意見があった。

ただ、実状として、コミュニケーションが面倒なのでマンションに住んでいるという人や、セキュリティが厳しく、なかなかアプローチできないというようなお話もあった。

それに対して行っている活動については、これまでマンションはターゲットにしていなかったというようなお話だった。マンション建設段階でアクションをすることや、マンション住戸個別でも入れるようにしようというような意見もあった。

今日はプラスでどんなアイデアがあるかというところを考えていきたい。知る、声を掛ける、関わってもらう、参加したくなる、続けてもらう、という段階に分けて考えていければと思う。

#### ○G氏（待鳳学区）

町内会が単独で情報発信するのは難しいと思う。学区全体で行っている事業の方が面白い。

#### ○H氏（待鳳学区）

待鳳学区には神社が3つある。祭に子どもが参加できるように、小学校が協力すると言ってくれている。祭をきっかけにするというのも一つの手だと思っている。

昔はみんな祭で繋がっていた。

#### ○G氏（待鳳学区）

運動会と地蔵盆と祭が大きなイベントだった。運動会は比較的賑わっているが、地蔵盆や祭の元気がなくなっている。

マンションに住んでおられる方が、減多に出てこられない。住んでいる方の情報が得られないのでマンションへのアクションは難しい。

#### ○H氏（待鳳学区）

チラシでだめなら、SNSで情報発信してはどうかと思っている。

#### ○片木課長

マンションにお住まいの方でも、運動会に参加したいというような人もいると思う。

#### ○H氏（待鳳学区）

町内会に入っていない人でも声を掛けて参加してもらえたらいいと思う。直接誘っていくことをしていけばいけない。

### <Eテーブル>松山係員

#### ○松山係員

このテーブルでは、大学生をテーマに議論してきた。

前回出た意見としては、マンションのオーナーに町内会への理解がない、今の若い人はネットで世界と繋がれるので、地域と繋がるという意識がないという意見が出てきていた。社会の変化もあり、若い人の意識を変えようとするのは難しいと思う。

そんな中で、前回アイデアとして出てきていることがいくつかあった。大学生が興味を持てるようなサークルが学区の中であればいいなことや、商店街で割引があればいいなこと、地域の人と大学生と一緒にご飯を食べるような機会があればというような話があった。

今日は、その他のアイデアについて膨らませていきたいと思う。

段階に分けて、知ってもらい、関わってもらい、継続してもらいのかということについて考えていきたい。

#### ○I氏（待鳳学区）

何が大学生にとってメリットなのだろう。大学と共同して、地域活動をすれば単位に繋がるといような、社会実習的なものにするといようなことができればいいかもしれない。

今年、新米が取れたタイミングで、火起こしから、かまどで新米を炊いて佛教大学生と一緒に食べた。そういった体験をしたことがない若い子ばかりだったので、とても喜んでくれていた。

#### ○J氏（待鳳学区）

始めから、得点的なこと釣るのではなく、直接的に声掛けをして来てもらうようにしないと、得点が目的化してしまう。

#### ○I氏（待鳳学区）

誰か知り合いと一緒に参加できれば、ハードルが下がるかもしれない。

#### ○加島課長

核になる学生が、どれだけいるかということかもしれない。

#### ○J氏（待鳳学区）

町内会に入っていない大学生が行事に参加してくれたとしても、町内会費を払っていないということで、文句を言う人も少なからずいる。町内会の人町内が盛り上がるためには、仕方ないと思ってくれればいいが。

#### ○加島課長

総会のような全体会議で、そういったことをアピールできればいいかもしれない。

#### ○E委員

自分が大学生だったときには、ご飯を食べるところ、スーパー、病院など基本的な地域情報が分からず困った。そういったものをまとめた冊子を配るといようなことができたらいいかもしれない。引っ越してきたタイミングでのアクションが大事だと思う。

#### ○J氏（待鳳学区）

大学生が住むマンションのオーナーが地元の人でないことが多く、理解がない。地域のことを知らない。

### <Fテーブル>佐藤まちづくりアドバイザー

#### ○佐藤まちづくりアドバイザー

このテーブルでは、大学生がテーマ。前回の議論に加えて、何かアイデアなどがあれば。

#### ○F委員

大学生にも層があると思う。地域活動に興味のある大学生は増えてきているのではないかと思っている。その層でさえ、町内会に入るものなの？という意識がある。

オープンキャンパスのタイミングよりかは、住んでからのタイミングで、区役所として何かPRが出来ればいいのでは。学区で行うのがなかなか難しいのではないか。

オープンキャンパスでサークルがブースを出すので、そのタイミングで防災サークルと一緒に活動するといことは考えられるかもしれない。

#### ○K氏（金閣学区）

町内会長が1年交代になるので、なかなか意識が低い。紫竹学区では年に10回ほど会議

を行っているということだったが、到底そのようなことはできていない。

金閣学区では、社会福祉協議会が地域をまとめているが、町内会というところまできめ細やかにできていない。

### ○室谷課長

町内会費についても、町内会によって違う。やっていることも違う。入れと言われても、条件がそれぞれに違うので難しいという話も出ていた。大学生は一律にいくらというようなことにできれば、分かりやすい。

### ○K氏（金閣学区）

町内会費がどう使われているかということは、半分以上の人が知らない現状。学生に期待することと言えば、清掃活動への参加、子どもとの関わりなどだ。

### ○F委員

学区と学生の関わりとしては今のお話のように見えやすいが、町内会と学生との関わりというのが、なかなか見えにくい。

~~~~~

○事務局

それでは次に、進行役と地域代表者以外の皆様については、今座っておられる椅子を一旦離れていただき、他のテーブルに移動してもらいたい。

移動後、移った先のテーブルで出たアイデアや具体的な進め方を聞くだけでなく、ご自身のおられたテーブルでのお話も移った先のテーブルで紹介していただき、更に、新たなアイデアを検討してもらいたい。20分、時間を取る。

【②他テーブルでの情報共有】

<Aテーブル>西原まちづくりアドバイザー（鳥居氏，赤澤氏，福島氏，藤田室長）

○西原まちづくりアドバイザー

このテーブルは、紫野学区で負担感を感じて抜きたいと思っている人をどのように繋ぎ止めるかがテーマ。

高齢者ではなく、働いている世代。夫婦や子育て世代をどうして繋ぎ止めるか。子供がいない、または巣立った後でメリットがないという人がターゲット。

忙しい、面倒、メリットないしというところをどうやって解消できるかということで、何かを減らすのではなく、何か取り組んでいけることがないかを話していきたい。

紫野学区では、毎月1回決まった日に学区全体で門掃きをしようということと、子育て世代対象にハロウィンパレードをした。当初20組を対象にと考えていたが、予想以上の120組が来てくれた。こういうイベントは大変なことばかりだと思いがちだが、負担感を感じず楽しく取り組めることがポイント。子どものために、PTAが頑張ってくれた。子どものために楽しくしたいという気持ちが不成功になった、というような話をした。

○I氏（待鳳学区）

月1回の門掃きはどのくらいの人数の人が出ているのか。

○B氏（紫野学区）

9月から始めたことなので、まだ少数ではある。これから徐々に増やしていきたい。50町のうち10くらいの町内が協力してくれている。第1日曜の8時から30分間だけ、門掃

きは10分、後は他の人とおしゃべりしてくださいと言っている。

○I氏（待鳳学区）

役は、嫌がられる。年間の行事としては、高齢者のサロンなどを行っている。地形的に坂になっていて、参加するのが難しいという人もいる。

○L氏（金閣学区）

今まで町内会に対してメリットを感じたことがない。負担感は拭えないものだと思う。参加率のことだけ考えるのであれば、大学生は省いて他の世代にフォーカスした方がいいと思う。

○B氏（紫野学区）

紫野学区では学生ボランティアになってくれる人を探しているが、難しいと思うか。

○L氏（金閣学区）

学校にボランティアサークルがあるので、そういったところを通じてであれば考えられるが、住んでいるという条件だけでは難しいと思う。大学生は期間限定の下宿なので、そこに地元愛のようなものがない。

○D氏（大谷大学生）

自分は大学4回で同じところに4年間いるので、地域のおじちゃんおばちゃんと顔見知りになっている。少しでも地域の役に立てることがあれば、しようかなというような気はある。

紫野学区のハロウィンを手伝いに行ったが、初めてそういった体験をしたので、貴重だった。

○L氏（金閣学区）

そういった意見を持っているのは特異な人で、大半の大学生は面倒臭さを感じて、関係を切りたがる。

○西原まちづくりアドバイザー

何がそんなに面倒だと感じるのか。

○L氏（金閣学区）

例えば、暇な日曜日に、地域活動をしよう！というような気にはならない。

○B氏（紫野学区）

先日地蔵盆が終わってから、打ち上げをしたが、申し込みが80組もあった。そうやって盛り上がっているようなところに大学生は参加したいというような気にはなるだろうか。

○L氏（金閣学区）

友達を誘っていききたいとは思いますが、参加する程度の関わりと思う。

○I氏（待鳳学区）

昔は、そういった足洗いを盛大にやっていた。例えば、地域活動に参加すれば、大学で単位がもらえるということであればどうか。

○L氏（金閣学区）

行くと思うが、大学生が固まって馴染むようなことにはならないような気もする。

○西原まちづくりアドバイザー

子どもに向けてはPTAが負担感なく楽しくやっている。大学生が負担感なく、自分たちも楽しみながら、相手も楽しませながらできる地域活動があるだろうか。

○L氏（金閣学区）

サークル活動かと思う。住んでいる場所で何かというのは考えにくい。大学1～2回生は、

学校、バイトなど、圧倒的に時間がない。3～4回生は比較的時間があるが。

○I氏（待鳳学区）

昔は、今のように楽しみがなかったし、忙しくもなかったように感じる。テレビを公園に見に行くような時代だった。

○L氏（金閣学区）

例えば、ワールドカップの時にパブリックビューを設置すれば、人は集まると思うが。

○藤田室長

1度役をしてしまえば、ずっとしないといけないような気もする。終わりがしっかり見えていけばいいが。

<Bテーブル>山本まちづくりアドバイザー（G委員，加島課長）

○山本まちづくりアドバイザー

紫竹では、町内会に補助金を出す制度、紫竹カップ、負担感を感じる人に声掛けをするというような話をしてきた。地藏盆だけでなくお月見会をしているような町内会もあった。

いろんな工夫をしながら、楽しんで準備をされているという話があった。

○B委員

まず、町内会から計画書を出してもらって、審査を行う。顔が見える活動をしようということがポイントだった。計画書の中で、子どもがお月見会のお団子を持って老人宅を訪問しようというものがあったが、却下した。老人同士の繋がりが出来ない。家から出てきてもらって顔を合わせないと意味がない。

○加島課長

1万円で計画を考える人が町内会毎にいるものか。

○B委員

考えれば1万円もらえとなると、案外企画は出てくるものだ。どこかの町内がやりだせば広がっていく。

もう一つは運動会の時に、飲み物を配るという企画があったが却下した。顔を合わせるというところがポイントだ。

○加島課長

大学生やマンション住民へのアクションなどは、何かあるか。

○B委員

紫竹学区では、そこをターゲットにはしていないが、取組をしないといけないと思っている。盛り上げていけば、広がってくると思っている。

紫竹学区でも大きいマンションで入っていないところがある。町内会長さんに何度も言ってもらっているが頑なに入られない。

○加島課長

できる人をどうやって探し出すか、そうやって役割分担をするかが大事だと思う。

○B委員

もの凄く頑張る1人より、少しずつ頑張る何人かを見つけるべきだ。フォローし合わないと繋がっていかない。町内会長になった次の年は副会長になってもらうなどの体制を作っている。

以前に町内会に入っていない人に、なぜ入らないかという調査をしたことがあるが、その

理由を見て対策を考えていつている。

○G委員

ノウハウのある人がフォローに入ってくると、安心して役ができる。

○B委員

今年は祭の実行委員会の代表に40代の方になってもらったが、1人ではダメ。数人で入れないと続かない。

また、町内会長は1年で変わるが、町内会長経験者が地域の中で増えてくる。1年交代は悪いことではない。

○G委員

脱退したいと言ってきた人にデメリットをお伝えすると言われていたが、デメリットとはどういうことか。

○B委員

活性化しすぎると、内輪感があつて、そこに入れないという意見がある。役を持っている人以外の一般の方が地域活動をしたかった時のシステムが作れていない。

少人数の輪ができれば、活動に対して補助をするよということをしている。

○G委員

子育て世代のお母さんなどは、色々とニーズがあると思うが、町内会と繋がらない。緩く、集まって週1回お話しする場のようなものを地域で作れたらいいと思う。

<Cテーブル>松井係長（A氏，H委員，室谷課長）

○松井係長

このテーブルでは、今町内会に入っている高齢者の方が脱退しないようにするにはどうすればいいかを考えていくテーブル。町内会費や役が負担、一人で生きていけるといような意見があつた。

それに対して、負担減については、町内会単位で考えるのではなく学区で考える必要があるという意見があつた。

また、高齢者対象の楽しいイベント、参加しやすいイベントを考えていくような配慮をしているということだった。

○H委員

自分のテーブルでは、町内会でやっていることを、若手の力を借りて発信していくといような話が出ていた。人を繋げていくのは、お祭りや地藏盆だなどということ、多世代が繋がれる機会として、活用していけばいいのではないかと。

○室谷課長

自分は大学生テーブル。町内会費は、町内会ごとに違い、学区として一律でないので、PRしにくいという話がある一方で、大学生から町内会費を取るのではなく労務提供でいいのではないかと意見もあつた。

○A氏（紫野学区）

負担感を感じている人の理由はそれぞれなので、負担感を減らすというよりかは、楽しんでもらうことを増やした方がいいと思う。

人と交わるのが嫌だと思っている人の考え方を変えていくのは難しい。

高齢者については、災害対応などで近隣にお世話にならないというところがあり、比較的

入っている人が多いと思う。

学区で一律に役を免除というところについては考え物だと思っている。なり手がいない。

○室谷課長

高齢で細かい役の事が出来ないので、近所に住んでいる子どもさんがフォローをしているようなご家庭もある。

○A氏（紫野学区）

高齢者は町内への気持ちを持っていると思う。役を免除すると元気がなくなれるということもあるかもしれない。

○M氏（紫竹学区）

うちの町内では、高齢者の役免除については年齢ではなく、その人の申告に基づいて免除している。ただし、町会費と、事業への参加をお願いしている。

足の悪い高齢者の方は、不参加になることが多い。どうしたら参加してもらえるかと考え、町内会という小さい単位での事業であれば、来てもらえた。そういった配慮をしていくことも大事だと思う。

○A氏（紫野学区）

紫竹学区では、町内会から学区に自治会費を集めて、それをまた、再配分しているということか。

○M氏（紫竹学区）

そうしている。今年は補助金を使用して、事業を行ったが、来年度以降も続けていけるか、その点については考えていかないといけない。

<Dテーブル>朝倉まちづくりアドバイザー（松本区長，上田氏）

○H氏（待鳳学区）

すぐそばをお神輿が通っていても見たことがないという人もいる。地域活動に興味のない人が多いように思う。自分たちが知っているから周りも知っていて当たり前ではなくなってきている。

○松本区長

回覧板は町内会に入っている人しか回していないとなると、町内会に入っていない人は、どうやって情報を知るのか。

○朝倉まちづくりアドバイザー

SNSで発信というような意見もあったが、自分たちの世代でもなかなか難しいと思う。

○松本区長

待鳳学区のふれあい祭で、町内会に入っていない人を対象にしたふれあい祭を実施されていたと思うが、それはどのようにして周知されていたのか。

○H氏（待鳳学区）

回覧板と、チラシの全戸配布を行った。ただ、町内会長に任せているので、マンションなどに配ってくれているかまでチェックしていない。

○松本区長

各町内の広報板は誰しもが見られるものではあると思うが。

○G氏（待鳳学区）

模擬店のものを買おうと思うと、前売り券が必要だが、前売り券は、町内会に入っている

人しか買えないということになる、そうすると入っていない人は入れない。

○松本区長

まず、知ってもらおうという第1段階のところに力を入れないといけないと思う。ポスターを貼っていても、そんなに見てもらえていないのであれば、ポスターに工夫が必要かもしれない。町内会に入っていない人も来てください！というアピールをもっとしてもいいのではないか。知ってもらわないと、次に進んでいかない。

○G氏（待鳳学区）

マンションの中にある掲示板にポスターを貼ってもらったらいいかもしれない。

○朝倉まちづくりアドバイザー

SNSは、わざわざ情報を取りにいかないといけない。ポスターなど目に触れるものを工夫していく方が有効ではないかと思う。

○H氏（待鳳学区）

町内会長を含めて、町内会加入率向上についての意識を持ってもらう必要があるが、今は、町内会長に負担を掛けないように、会議の回数を減らし、時間も短くしている。

○松本区長

顔を合わせる機会が何回もあれば、繋がりが出てくると思う。楽しめる企画をみんなで話すような楽しい場にできればいいが。

○G氏（待鳳学区）

町内会長会議の回数を増やせば増やすほど、人が減っていく。

○H氏（待鳳学区）

長い時間は難しいかもしれないが、楽しい企画であれば、参加してくれるかもしれない。

○松本区長

大学生に町内会に入ってもらって何を期待するかということだが、お金を払ってほしいというよりかは、関わってもらいたいというような気持の方もいる。

大学生自身でも、大学生同士で繋がりたいということや、ご飯を食べる機会があれば、というような希望を持っている人もいる。

○H氏（待鳳学区）

そのためには、祭がきっかけになる。食べ物も大したものでもなくてもいい。

○G氏（待鳳学区）

祭で大学生ができるようなことというとなんがあるのか。地域の人と同じように参加できるようなものがあるのか。発信を頑張っても来てもらっても、受け入れ側が整っていなければいけない。

<Eテーブル>松山係員（F委員，N氏，O氏，片木課長）

○松山係員

このテーブルでは、大学生をテーマにしている。コミュニケーションの話が多く出ていた。地域と繋がってなくてもネットで世界と繋がれる、そもそもコミュニケーションが面倒だという話がでていた。一方で、引っ越してきたときに何も声掛けもされていないというような意見が前回に出てきた。

その中で何ができるかということについては、町内会のことを知ってもらい、参加してもらい、継続してもらおうという3段階に分けて考えた。

前は、学区内の同世代の大学生と繋がるべく、趣味サークルを作ってはどうか、商店街での大学生割引、地域の人が作ってくれたご飯と一緒に食べられるような機会があればいいな。また、地域を紹介するようなブースが入学式であればいいなというような意見が出てきた。

○J氏（待鳳学区）

大学生は、町内会費を払ってまで入ろうとは思わないと思う。学生マンションなどで、横の繋がりがあればいいが。また、声掛けやすい環境があればいいが、セキュリティなどでなかなか関わりが持てる機会がない。また、回覧板を回しても伝わっていないかもしれない。

○○氏（産業大学生）

自分は実家住まいなので、回覧板は回ってきているが、見ない。また、下宿している子も見ないと思う。地元の祭だと、地域は一丸となるが、それ以外の地域活動については知らない。

○N氏（大谷大学生）

自分は寮に住んでいる。回覧板は回ってきているが、見ない。隣に回すだけで中身を見ていない。

○松山係員

大勢を対象にしたチラシでは伝わらないのかもしれない。誰かに直接チラシを見てね、と言われたら対応は変わってくると思う。

○片木課長

実家に住んでいれば、親から地域活動に参加して、というようなことを言われたりしないか？

○○氏（産業大学生）

親も地域活動に積極的ではないので、祭以外の活動については何も言われない。

○F委員

祭はどここの地域でもやっていると思うが、関わりを持つ良いきっかけだと思う。誰かに直接誘われたりすれば、関わりやすい。

キラッと光る町内会参加大学生みたいな人がいれば広がっていくと思う

○片木課長

似たような世代の人が関われるきっかけがあればいいかもしれない。若者同士で出会いなどがあれば、刺激になるかもしれない。

○F委員

学生で町内会に興味のある人は、同世代と関わりたいというよりは、地域と関わりたいと思うのではないか。地域に興味がある層をターゲットにするのであれば、同世代の関わりは関係ないと思う。どの層をターゲットにするかによる。

○松山係員

大学の入学式などで、地域をPRするブースを出してはどうか、というような話も出ていたが、いかがか。

○F委員

入学式で行うのは不可能だと思う。立命は、入学式をみやこめっせで行っているという理由もあり厳しい。大前提として、大学側として、大学生が町内会に入ることへの認識があまりない。

〇〇氏（産業大学生）

大学生は同世代との交流は、大学内でしている。町内会に求めるものとしては、違う世代との交流だと思うが、一人で入ろうという気にはならない。

〇片木課長

交流会のようなものを自治会ですするというのもいいかもしれない。

〇F委員

自分が大学の時にマンション内で交流会をやっているところがあったが、ロコミですごく広まっていた。花見のようなことでも、楽しいと思う。マンションオーナーで理解のある人と数人の大学生で地域イベントに参加するなどができれば。

〇〇氏（産業大学生）

ロコミが一番のツールだと思う。学生の中ではロコミでの伝達が早く、効果的だと思う。ツイッターでこんなイベントに行ったら楽しかったというようなのが上がっていると、興味を持つ。一番初めにロコミを広げる、軸になる人がいればいいが。

ご飯を食べられるということは、大学生にとってポイントになる。

〇F委員

確かに、お酒はなくていい、ワンコインでもいいのでご飯を食べられる機会などがあれば、大学生は集まりそうだ。

<Fテーブル>佐藤まちづくりアドバイザー（D委員，A委員，鈴木係長）

〇佐藤まちづくりアドバイザー

大学生の意識としては、町内会は所帯を持った人が入るイメージだという話があった。オープンキャンパスで地域ブースを設けてPRすればいいのではないかと、防災サークルと地域が合体してブースを出せばどうかという提案もあった。

〇D委員

自分が大学生の時は、小学校の前にあるマンションに住んでいた。マンションのオーナーが町内会長だったので、運動会に引っ張り出されたり、近所のおばちゃんからご飯をもらったりするような良い関係であったが、町内会には入っていなかった。

〇K氏（金閣学区）

大学生から町内会費をもらうというよりは、運動会に出てもらえたり、関係性を持ってくれることの方が重要だと思う。

〇佐藤まちづくりアドバイザー

町内会に加入してもらわなくても、実質的に関わりを持ってくれるだけでもいいのかもしれない。

〇A委員

町内会の加入の目的というのは、防犯や防災の部分だと思う。町内会のそもそもの目的である、防犯防災の部分については、大学生にとっても当事者意識のある部分かと思うので、大学生も含めて、情報交換できるようなことができればいいが。

〇D委員

町内会が防犯防災の組織だという意識は一般的なのか。

〇A委員

そういう機能もあると思う。町内会長イコール自主防災会の会長だったりもする。

○K氏（金閣学区）

防災訓練ですら人集めをしないといけない。来る人も面倒臭いと言いながら来る人もいる。学区や町内で絶えず集まるような癖付けをした方がいいかもしれない。

○鈴木係長

運動会など、いろんなイベントは顔見知りになるきっかけになる。顔見知りになっていれば、災害の時にも助け合えるし、ごみの出し方など、ご近所の細かいがみ合いなども減るかもしれない。

○K氏（金閣学区）

先ほど紫竹学区では、飲食は出さないと切り切っておられたが、運動会でお弁当が出るので行くか、という人もいますので、何も出さないとしたときに来る人が減るのではないかという不安もある。

○D委員

自治会や町内会の基本的なところが危機管理にあるのだとすれば、危機管理は教育でもできる。大学生に危機管理教育をきっちりすれば、伝わると思う。大学生だけでなく、若い世代にも同様のことが言える。

~~~~~

## ○事務局

時間が参りました。それぞれ、元のテーブルにお戻りください。

これからの時間は、先ほど移動した先のテーブルで出た意見をテーブル内で共有しながら、もう一度、ご自分のテーブルで、来年度以降に取り組みそうなことを模索していただきたい。

それでは、各テーブルの進行役さん、よろしく願います。

## 【③自テーブルでの情報共有】

### <Aテーブル>西原まちづくりアドバイザー

#### ○西原まちづくりアドバイザー

大学生のサークルが関わってくれる可能性はあるが、住んでいる大学生が地域に関わることは難しいのではないかという意見が出ていた。

楽しく、負担無く集まる機会というのが大きなポイントで、大学生についてもそれは言えるのではないか。ワールドカップの観戦をするような機会を設けたり、映画鑑賞会のような、手間を掛けずに集まれるような場があったらいいのではないかという意見があった。

イベントについても、役についても、きちんと終わりが見えなければ負担になるというような話があった。

#### ○A氏（紫野学区）

高齢者テーブルでは、定年で役を免除するのではなく、やる気のある間はお任せした方がいいという意見が出ていた。また、紫竹学区では、補助金の1万円を使って、昔の町内のレクリエーションなどの写真を展示して話の輪が広がったというような話があった。

歩いて来られるような近くの場でそういった機会ができれば参加してくれる人も増えるのではないかという話だった。

#### ○A委員

大学生テーブルでは、大学生が町内会に参加するメリットについての話をした。危機管理、



防犯防災のことについては、大学生にとっても他人事ではない。

### ○B氏（紫野学区）

学区で75歳以上のお年寄りの調査を行った。防災など何かあった時に役立つ情報を出していただいたが、高齢者については、危機感を持たれていると感じた。

### ○N氏（大谷大学生）

生まれ育った地元では、海が近いので、地震が来た時にどうしようというような危機意識があったが、京都に来てからはない。地元の小学校でも災害に対しての授業があった。

### ○A委員

大学でも危機管理の意識を高めるような授業をした方がいいのではという意見があった。

### ○N氏（大谷大学生）

緊急地震速報で携帯が鳴っても、京都でどうしていいかわからない。自分は危機意識を持って周りに言っても、周りは気にしていない様子だった。

他のテーブルで、地域の人がお金を出されてご飯を食べさせてもらえるような機会があれば行く、という話が出ていた。

### ○川妻部長

マンションを議論しているテーブルでも食事の話が出ていた。地域情報の発信をするのに若い方の力を借りたいと思っている地域側のニーズと、家で食べるご飯が恋しいと思っている大学生のニーズがマッチングすれば、いいなという話が出ていた。また、町内の広報板に興味を引くような、誰でも来ていいですよ、と一目見て分かるようなお知らせをすればいいのではという話も出ていた。

### ○A委員

京都に来る大学生は、大学生の間に京都の文化を知りたいと少なからず思っているのではないか。祭など、参加してもらえる機会を提供すればいいと思う。

### ○西原まちづくりアドバイザー

子育て世代と大学生とは感覚が近いかもしれない。

### ○N氏（大谷大学生）

SNSもいいが、若者には口コミが一番伝わると思う。

### ○B氏（紫野学区）

市内何箇所かでしている刀剣乱舞スタンプラリーの1箇所に建勲神社があって、若い人がたくさん来ていた。そういったことも、口コミで広まっているようだ。

### ○川妻部長

今の学生さんは核家族化で、親以外の大人と話す機会がない。そうすると、就職した際にとっても苦労する。若いときから違う世代の人と接することが大事だと思う。

### <Bテーブル>山本まちづくりアドバイザー

### ○鈴木係長

大学生テーブルでは、オープンキャンパスの時に、学区のPRするブースを出せばどうかということや、授業の中で町内会活動を知ってもらえるようなことや、サークル活動PRのタイミングで防災サークルと一緒に呼び掛けをしたらどうかというような話もあった。

町内会費を払うことが町内会に入ることなのか、参加してもらっただけでも町内会に入っていると聞いてもいいのではないかと話が出ていた。学生に来てもらえることで、高齢者の若返りにもなる。

## ○B委員

大学生だから、一生懸命声を掛けないといけないということはない。

## ○D氏（大谷大学生）

大学生は地域のためにと言われても、下宿している地域に愛着がないという意見が出ていた。

## ○鈴木係長

地域にはいろんな人がいるので、会社の狭い価値観を超えて、見聞を広げられ、いろんな世代の人と関わり、勉強になる。

## ○D氏（大谷大学生）

大学のサークルで地蔵盆に呼ばれて紙芝居を読み、その後交流会に参加したことがとても楽しかった。そういったきっかけがなければ、一人で関わるのは難しい。

## ○M氏（紫竹学区）

自分は町内会を脱退する高齢者がテーマだった。負担感については、個人によって感じるところが違うので、辞めたいと言われたら、仕方がない、その代わり町内会費は何とかお願いしますとしてはどうかと伝えた。

## ○B委員

紫竹学区は、町内会長の会議では、ほとんど欠席がない。

## ○山本まちづくりアドバイザー

何も言わない人よりかは、文句でもいいので言ってくれる人の方が、議論が深まる。今後やってみたいことや、アイデアなどはあるか。

## ○B委員

文化系の趣味がある人は、家にこもりがちなので、そういった人を外に出すにはどうしたらいいか考えている。一度紫竹まつりの時に、作品展のようなものをした。文化祭のようなことをしようかとも考えている。

紫竹学区では、55歳以上の人を集めて浪漫クラブという趣味の会作った。定年になってからも打ち込めるような趣味を見つけてもらおうと思っている。

町籍簿は、今や幻のようだが、紫竹学区では、未だに更新している。

## <Cテーブル>松井係長

### ○松井係長

他のテーブルから来た人から出ていた意見だが、学生のテーブルから来た人は、町内会によって、町内会費が違うので、一律に減免することが難しいという話が出ていた。

紫竹のとある町では、本人から申告があれば、役は免除するようにしている、ただし、町内会費は払ってねと言っているということだった。

イベントについては、近所の単位で行っていれば、普段参加できない人に参加してもらえらることもあるというような話があった。

### ○F氏（産業大学生）

学生テーブルでは、町内会費は要らないので、町内会に入って、行事に参加してほしいというような話が出ていた。

### ○藤田室長

紫野学区の負担感のテーブルでは、月1回学区全体での門掃きを行っているという話があ

った。短時間でいいので、自分の家の前の門掃きをして、余った時間はお話をしましょうというようなことをしているとのこと。

### 〇〇氏（産業大学生）

大学生テーブルに行ってきたが、町内会に興味があるような大学生は、同世代というよりは多世代との交流を望んでいるのではないかという話が出ていた。

### 〇D委員

大学生テーブルに行ってきたが、何のために町内会に入るのかという話が出た。結局は、危機管理意識なんだという風に思う。大学生であったとしても高齢者であったとしても、そこに誰が住んでいて、どこに避難するかということ。

今は、どの程度町内会に危機管理の取組をしているかと考えた時に、年1回の防災訓練に留まっているのではないか。しっかりと危機管理の教育をしなければいけないと思った。

地震が起こった時に、町内の人の存在は大事なんだということを伝えていかないといけない。言い続けると伝わっていない。町内会は、何のための組織なのかをしっかりと伝えていかないといけない。

### 〇藤田室長

大学生は町内で活動するよりも楽しいことがほかにたくさんあるという意見が出ていた。

### 〇C委員

部活、バイトで忙しく行事に参加しづらいという人が多い。多くの家主さんは、家賃をいかに安くするかを考えている。そこへ町内会費は足手まといになる。

### 〇D委員

最近マンションの共益費の中に町内会費が入っている場合もある。

### 〇C委員

高齢者については、やる気のない人にいくら言っても、難しい。

### 〇松井係長

切り捨てることはできないが、先ほどの話に出た危機管理の部分で説得するしかないかもしれない。楽しい取組についても、学区全体となると行きにくいかもしれないので、町内会くらいの身近な範囲でできることがあるかもしれない。

### 〇C委員

町内会長が意識を持ってくれたらいいが、町内会長の仕事が多すぎて、今以上に事業を考えて実施していくというのが難しいと思う。

### 〇D委員

高齢者の方の楽しみっていうのはなんだろう。若い子は大きいテレビでスポーツ観戦することが楽しいと思う。例えば高齢者だったら、歴史に詳しい人の解説してもらった後に大河ドラマや相撲を観るといような取組は楽しいかもしれない。昔は銭湯がそういった交流の場になっていた。

自治会館でオリンピックをみんなで観よう！というようなことをすれば、人は集まると思うが。

### 〇C委員

前回と前々回のオリンピックの時は、みんなで応援する機会を作った。

### 〇D委員

気楽に集まれるものがよい。話しても話さなくてもいいので、気軽に集まれるということ

ができればと思う。

## **<Dテーブル>朝倉まちづくりアドバイザー**

### **○L氏（金閣学区）**

紫野学区でハロウィンパーティーで仮装などをして、親御さんも含めて沢山の人が参加して実施したという話があった。

### **○H氏（待鳳学区）**

自治会の役員が手いっぱいなので、若い人でやってくれたら嬉しい。

### **○H委員**

紫竹学区で1万円の助成金を出すことについては、無条件に出るわけではなく、審査があったということだった。具体的には、歩いて行ける範囲で昔の地域の写真を飾ったらとても盛り上がったという話があった。

### **○H氏（待鳳学区）**

自治連合会として、町内会からお金をもらっているが、それを町内会に還元しなければいけないなと思っている。

### **○G委員**

原則として町内会の一部の人ではなく、すべての人に声を掛けることが大事。募集を掛けて一つでも二つでも出てきたらいい、くらいの気持ちで実施した方がよい。

### **○片木課長**

マンションと自治会の交流会などができればいい、マンションの中でも仲良くなりたい人がいるかもしれないというような話が出た。交流会をしてみたら、きっかけになる。

### **○L氏（金閣学区）**

地域活動に参加したら、参加証明書が発行され、単位に繋がるというようなことがあれば、活動に参加してもらいたいという意味でのニーズは解消されるのではないか。学生にもメリットがある。

### **○片木課長**

大学生はお金がないので食べ物があれば集まると思う。

### **○朝倉まちづくりアドバイザー**

そういったことを開催できる場所というのは大事だと思う。学区の会館でできればよいが。

### **○H氏（待鳳学区）**

それぞれの団体が行っている行事の精度を上げて、みんなで良くしていこうという意識が大事。

### **○朝倉はちづくりアドバイザー**

イベントにいろいろな人が参加できるような工夫、マンション住民との交流会など新しいアイデアが出たが、とにかく楽しいイメージを持ってもらえるようにできれば。

### **○L氏（金閣学区）**

大学生に力を掛けず、より具体的に入ってもらえる人に着目した方がいかもしれない。

### **○朝倉まちづくりアドバイザー**

単身者は除いて、世帯を持っている人に注目するというのは、一つの考え方だと思う。

### **○H氏（待鳳学区）**

町内会のことを変更しようと思う町内会員の方に納得してもらわないといけない。各種団

体と自治連合会での予算の使い方など、整理しようと思うと難しい部分がある。

### ○H委員

大学生からお金を貰わず、労力の提供、参加をしてもらえたらいいという話が別のテーブルで出ていた。

### ○L氏（金閣学区）

京都は、外部の人に冷たいという印象があるが。自分の地元では家の鍵を閉めず、知らないおばちゃんが自分の家にいるということがある。

### ○朝倉まちづくりアドバイザー

大学生のサークルと繋がろうと思うと、どうすればいいのか。

### ○L氏（金閣学区）

立命館大学にはボランティアセンターがあり、誰でも利用していただける。そういったところで、マッチングができると思う。

### ○朝倉まちづくりアドバイザー

町内会長さん同士の仲間意識、祭を通じての仲間意識など、顔を合わせる機会が沢山あれば、仲間意識が醸成されると思う。そのために、学区の会館がオープンな場であればいいと思う。

## <Eテーブル>松山係員

### ○松山係員

大学生と町内会の繋がりを考えたことがない、また、大学生が町内会に入れるんだ、というところから始まった。

大学生で町内会に少しでも興味のある人は、同世代との交流ではなく、多世代との交流を求めているのではないか、ただ、一人で飛び込むにはハードルがある。

学生はとにかく、口コミ。回覧板は見ない。口コミをしてくれる中心人物が必要。また、マンションオーナーの存在も大きい。

マンションオーナーが開催する交流会のようなものができればいいなという話もあった。

### ○E委員

大学生テーブルに行ってきたが、災害が起こった時には大学生も困るんだという意識を持ってもらうための教育が必要だという話が出ていた。また、町内会に入ってもらおうというよりは、繋がるというところがまず始めだろうという話だった。

### ○J氏（待鳳学区）

2年前に台風で避難勧告が出た時に避難してきた学生は2名だけだった。

### ○E委員

学生の中で地域活動と町内会に入ることがイコールではない。大学生に、町内会に入ってもらおうことを目的にするのではなく、まずは、参加してもらおうことを目的にする方が自然なのかもしれない。

### ○J氏（待鳳学区）

楽只学区では、消防団に学生がたくさん入っている。ボランティア活動が、就職活動の時に、有利になるということもある。

学区のボランティア活動になると参加しにくいですが、半分行政のようなボランティアだったら、参加しやすいと思う。

## ○松山係員

マンションオーナーに働きかけるというのは難しいのか。

## ○I氏（待鳳学区）

なかなか難しいと思う。個人情報の壁もある。

## ○J氏（待鳳学区）

地元に住んでいる大学生ではなく、下宿している大学生が、その下宿先の地域のためにと  
いうのが難しいかもしれない。

## ○加島課長

紫竹学区には、町内会に入っていない人たちでも、同じ志の若手グループの取組に対して、  
補助金を出されるとい種蒔きをされているようだ。

## ○松山係員

大学生への関わりをどこまで求めていくか。町内会に入ってもらふことなのか、参加して  
もらうことなのか。

## ○J氏（待鳳学区）

大災害などがあれば、大学生は絶対に動いてくれる。そこで地域活動の重要性も伝わると  
思う。

昔は消防団員も自営業の人が多かったが、今はサラリーマンが多い。もしも災害が起こっ  
た時にすぐに帰れない。地元にいる大学生だったら、初動できる。

## ○I氏（待鳳学区）

紫野学区で話を聞いたら、学生はバイトで忙しく暇な時間がないということだった。仕送  
りしてもらっている身で、少しでもバイトで稼いでというのは理解できる。

## ○松山係員

就職のように大学生にとってのメリットと、地域側のメリットがマッチングできればスム  
ーズに繋がる。

これまで出ていた意見では、マンションのオーナーがきっかけになって、地域と大学生を  
繋いでくれる存在になるのではないか。自分一人で繋がるのは難しいので、友達と一緒に参  
加できる方がよい。

また、先ほどの話で出ていたかまどで新米を炊いて食べるというような珍しい体験につい  
て、大学生にとってニーズのある“食”を通じて、知ってもらふきっかけを作る、他の大学  
生の参加もできるような機会になればという話が出ていた。

とはいえ、災害が起こった時には、町内会の存在も大事なので、町内会に入ってもらふと  
いうよりかは、関わりを持てるように知ってもらふことから始めていく。

広報については、回覧板よりかは口コミが広げてもらえるということ。

## ○I氏（待鳳学区）

役所で話をしても、それが広がらないというのが勿体ない。こういうことをやっていこ  
う！という何かがなければ、意味がないと思う。

## ○E委員

PTA会長をしても、区役所の取組について知る機会がない。こういったことが話し  
合われていることを知らない。自分も今年初めて知った。

## ○佐藤まちづくりアドバイザー

大学生については、加入というよりかは、参加してくれたら嬉しいという意見があった。また、防災の観点において、地域と繋がるということの重要性については、きちんと教育しなければいけないという意見が出ていた。

## ○松本区長

マンション住民のテーブルに行ってきたが、町内会がどういう活動をしているかを知らないということだった。それをどのようにして知ってもらうかということについてだが、回覧板は町内会に入っている人にしか回らない。

待鳳学区では、町内会に入っていない人を対象に、ふれあい祭の前にイベントを実施された。そのチラシについては、全戸配布をお願いしたが、実際に配られているかは町内会長さん任せになっていて分からないということだった。町内会に入っていない人にも、漏れなく情報が伝わるためにどうすればよいか。

一つは京都市の広報板を使ってのPRということだが、ポスター自体を見てもらえるものにしないといけない。

また、町内会長さんにやる気を持ってやってもらうために、どうすればいいかということについての話では、町内会長の負担を減らすべく、会議の数を減らしたが、町内会長さんの意識が低くなり、上手くいっていないということだった。町内会長さんに、会議に出ることを楽しんでもらえたらいいが。

## ○K氏（金閣学区）

会議については、なかなか回数を増やせない。マンションオーナーにも入居の時に、地域のイベントには是非参加してくださいねというようなPRをしてもらえたら。

## ○松本区長

マンション自体が町内会に入ってくれているのであれば、マンション内の掲示板にも情報を貼ってもらったらいいいのではないかな。

## ○室谷課長

学生にとっての町内会のメリットとなると、防災面だと思う。一人暮らしの学生が、災害があった時に、どこに避難したらいいという、そういう切り口だと思う。

## ○F委員

地域活動に関心のある学生も一定層いる。そういった学生は、同世代ではなく、多世代の人と繋がりたいと思っている。

## ○松本区長

地域で大学生と地域の人との交流会をするなども考えられる。小規模でもよいので始めてはどうか。豚汁とおにぎりだけでも人は集まると思う。金閣学区には夏祭りが無いが、プレ夏祭りのようなことはどうか。

## ○K氏（金閣学区）

地域と大学が連携してできればいい。

## ○F委員

マンションオーナーをきっかけにした交流会というのが他のテーブルであった。

## ○佐藤まちづくりアドバイザー

昔のように、一戸建ての二階に間借りしてというようなことであれば、自然と交流もあったが、今のマンション住まいでは、そもそも交流するということが前提にない。

## ○松本区長

病気になった時に、近くにあるお医者さんの情報など、地域の人に教えてもらいたい情報もあると思う。学生さんにも町内会長さんと繋がるメリットがあると思う。

## ○佐藤まちづくりアドバイザー

町内会長がそんな情報を持っていると、よもや思わない。

学生にとって、町内会加入のメリットがもっとあるはずだが、それが伝わっていない。加入のメリットをもっと伝えていった方がいい。防災防犯についても、もっと伝えていかなければいけない。

広報板に貼ってあるポスターを見ても、自分が対象者であると思ってもらえなければ意味がない。そういったところへの工夫も必要だ。

町内会長さんにやる気を出してもらうために、会議の回数は減らし過ぎず、会議の中身を工夫すべきということ。

地域に興味のある学生は一定層いるので、地域で交流会をやってしまったらどうかという話があった。

## ○K氏（金閣学区）

学区の中でも、やる気のある町内会長さんもいる。運動会の時に声掛けをしたり、町内会長に困りごとがないか、学区の長としてフォローをするようなことをしてもいいかもしれない。

## ○室谷課長

学生というと、下宿の大学生と思いがちだが、地元の学生がいる。そこもターゲットにしていく必要はあると思う。

~~~~~

○関谷部会長

それでは、時間となった。各グループにおいて、議論の内容を2分ほどで発表していただきたいと思う。Aグループから順番にお願いします。

【他テーブルと共有】

<Aテーブル>西原まちづくりアドバイザー

○西原まちづくりアドバイザー

紫野学区の人を中心に、負担感を持っている人について話し合った。働き盛りの世代は忙しく、役員になったりコミュニケーションを取るのが面倒、時間がない中で会議などに参加することが負担というような話が前回までの議論。

紫野学区ではハロウィンパレードを今年初めて行った。20組くらい参加してくれたらいいなと思っているところに、120組の参加があった。

PTAもたくさんの人たちが協力してくれたが、誰も疲れていない、楽しそうにやっていた。負担感がない人が楽しんで企画をしてやるような循環が出来ればいいなという話。また、地蔵盆の足洗いのようなものは、負担感なく集まれる。

負担感なく楽しく集まれる機会をどれだけ増やせるかがこれからの鍵ではないか。

地蔵盆、足洗い、ワールドカップをみんなで観るというように、ちょっとしたことでもみんなで顔を合わせる機会があれば、顔なじみになる。

学区はいろんなことをしているが、広報板やSNSなどでもいいので、どう発信していくか、どうやって知ってもらうか。

働き盛りの方をどう取り込むかということについては、大学生とどう関わるかというところと近い。

<Bテーブル>山本まちづくりアドバイザー

○山本まちづくりアドバイザー

紫竹学区では、町内会への補助金を今年から始められた。お月見会の企画を今年から補助金を使って始められた。企画を通すのがなかなか難しかったということだが、町内会の人すべてが繋がれるような企画にすることが条件だった。

町内会長のサポート制度も新たに設けられた。町内会長は1年交代で大変だという意見もあるが、逆に沢山の人が町内会長を経験できることになる。

できるだけ、同じ町内の中でサポートしてくれる人を探すよう取り組まれている。

町内会という身近な単位の取組を増やすことで、これまで学区のイベントに参加してくれなかった人も足を運んでくれたということだった。

<Cテーブル>松井係長

○松井係長

高齢者の方が町内会を抜けないためにどうするかということについて議論を行った。

町内会費を支払うのがしんどいという人の会費の免除をするのは不公平感が出るので難しいという意見や、役がしんどいということについては、学区全体で役の免除制度を作ればいいのか。

制度の中でどうするかという話と別に、高齢者の方に楽しんでもらえるようなイベントをすればどうかという話が出た。

例えば、みんなで大河ドラマや相撲を観るといようなアイデアがあった。町内という小さい単位で行った方が、参加しやすい。

防災面で町内会に加入した方がいいといったアピールは継続していく必要があるという話もあった。

<Dテーブル>朝倉まちづくりアドバイザー

○朝倉まちづくりアドバイザー

まず、情報発信。SNSでの発信という話もあったが、まずは、広報板で目に付くようなポスターなどを作ることから始めてはどうかという話だった。運動会、地蔵盆、地域のお祭りなど、いろいろな人が参加できるイベントに“食”で学生を引き付けられないか。

学生サークルの協力を得ることや、大学の窓口なども利用して連携してやっていくという話も出た。

学区の中で交流できる場として会館にもっと注目していこう、町内会長の仲間意識づくりやイベントごとで参加者が顔を合わせる機会をたくさん作ろうという話でまとまった。

<Eテーブル>松山係員

○松山係員

鷹峯学区では大学生と地域の関わり方について議論した。大学生については、加入なのか、参加なのかという点がポイント。まず、参加というところについては、大学生にとって、例えば、地域活動が大学の単位になればすごく嬉しい。そうでなくても、就職活動に加味されるようなことがあれば、大学生にとってもメリットになる。

災害時には遠くに働きに出ている社会人より、近くにいる大学生が頼りになる。大学生と地域が上手くマッチングが出来ればいいな。

引っ越した時にマンションのオーナーに理解がなく、地元の事を知らない。マンションオーナーに理解を持ってもらうことも大事。

大学生はまず、“食”“ロコミ”が効果的。参加して発信してくれるような大学生を見つけよう。

<Fテーブル>佐藤まちづくりアドバイザー

○佐藤まちづくりアドバイザー

今の学生には、地域活動に興味のある学生も一定層いる。参加なのか加入なのかという話が出たが、まずは参加だろう。防犯防災の部分では、日頃からのコミュニケーションが大事。

広報板やチラシなど、見た人に、自分も行っていると思ってもらえるようなデザインをして、まずは参加してもらう。

小さくてもいいので、地域で学生に参加してもらえるような交流会をしてはどうかというアイデアが出た。

○関谷部会長

ありがとうございました。

ただいまの6グループの報告について、何かご意見やご質問、補足したい点などがあればお願いしたい。(→なし)

それでは、ワークショップにおける議論については、これで終了とさせていただきます。本日の議題は以上。

前回と今回で皆様に議論していただいた内容について、事務局とも協議し、部会としての意見をまとめたうえで、第2回まちづくり会議において報告、議論を重ねたのち、北区民まちづくり会議としての意見とさせていただきます。

会議全般について、何かご意見など、あれば。(→なし)

本日お集まりいただいた委員の皆様のほか、地域代表者の皆様をはじめ、各種団体、大学生の皆様、本当にありがとうございました。皆様のご協力のお陰もあり、大変有意義な議論ができたと考えている。

今後、議論だけではなく、実際に行動に移す必要があるが、ここお集まりの「チーム北区」として、互いに協力、連携し、取り組む事が重要であると認識している。是非、皆様のお力で、より良い北区を創っていただきたい。本当に、ありがとうございました。

それでは、事務局にお返しさせていただきます。

○事務局

関谷先生、ありがとうございました。また、本日もご列席の皆様におかれましても、積極的なご議論、ありがとうございました。

今後の流れについて説明させていただきます。

本日と1月18日に開催する部会でいただきました意見や議論を基に、2月下旬に開催予定のまちづくり会議で、方針案を確認・決定する。

その後、3月初旬に、各学区の代表者の会議である北区地域代表者会議において方針を報告した後に、3月中旬に、区民、地域、各種団体、行政等が一丸となって北区のまちづくりについて意見交換を行う、「北区未来につながる区民会議」で方針の実行を決定し、来年度以降に取組を進めてまいりたい。

地域代表者の皆様におかれても、この2回の部会で出た新たなアイデアや意見を、是非、学区の取組に繋げていただきたい。

最後に、事務局から案内が1点ある。

まちづくり会議委員の皆様におかれましては、まちづくり会議のもう一方の部会である「ひと・まち活性化部会“子どもを産みたい、育てたいと思える環境づくり”」の第2回部会を1月18日（木）午後6時30分～8時に開催する予定である。お忙しい中、大変恐縮であるが、お時間の許す限り是非ご出席いただければと思う。

本日はこれで終了する。長時間にわたり、最後までありがとうございました。